

課題名	腎生検で診断の得られた足細胞陥入糸球体症の疾患概念の確立と臨床像および病理学的特徴の検討
承認番号	2024-5 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 腎臓内科 氏名 藤澤 一
研究期間	(西暦) 2024 年 8 月 ~ (西暦) 2028 年 3 月
研究の意義・目的	足細胞陥入糸球体症は、近年日本でその疾患概念が提唱され、病理学的に電子顕微鏡観察にて診断されます。腎臓での血液ろ過機構を担う糸球体に存在する足細胞から伸びる足突起が、糸球体基底膜に陥入してしまう疾患で、過去に数十件の報告があります。通常では、この足突起が、隣り合う足突起との間に形成するスリット膜が、腎臓でのろ過機構を担っており、蛋白尿を制御しています。そのため、本疾患の患者さんの多くは蛋白尿を主訴に腎生検を受け、病理診断にて確定診断されます。本疾患では、病態、臨床像はいまだ不明であり、さらにその長期予後に関しても分かっておりません。そのため、本研究では足細胞陥入糸球体症の疾患概念を確立し、その疾患の特徴を病理学的に解析し、臨床所見との関連を明らかにすることを目的とします。
研究の方法 (対象期間含む)	本研究では、診断のために採取された腎生検検体を用いて、足細胞陥入糸球体症と診断された症例の後ろ向き観察研究を行います。病理組織所見や免疫染色・質量分析などにより組織・分子レベルでの解析を行い、その結果との臨床病理学的な相関を検討するために現時点までの臨床データ(検査申込書やカルテの検査データ)を抽出します。いずれも、過去の病理検体(腎生検)と臨床データを使用するため患者さんへの侵襲、介入はありません。対象となる患者さんは、当院開院の 2005 年 4 月から 2027 年 3 月 31 日までに足細胞陥入糸球体症と診断された方です。横浜赤十字病院および横浜市立港湾病院を受診されていた患者さんは、診療録に記録がある場合は 1991 年 1 月 1 日以降に足細胞陥入糸球体症と診断された方も含みます。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	通常の臨床診療の中で得られた情報を匿名化した上で、日本医科大学解析人体病理学(研究責任者:同大学教授清水章医師)に提出します。 この研究に関するデータは、容易に個人を特定できないように記号化した番号により管理され、インターネットに接続されていない電子カルテ内のサーバーに保管します。研究対象者から研究継続の同意が撤回された場合には、提出された情報は速やかに廃棄されます。
利用又は提供する 試料・情報の項目	通常の臨床診療で得られた腎生検検体や臨床情報(年齢、性別、既往歴、腎生検時の腎機能や尿所見、血清学的検査値など)が提供されます。
試料・情報を 利用する者の範囲	当院 腎臓内科 藤澤一 日本医科大 解析人体病理学教授 清水 章

試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	当院：腎臓内科部長 藤澤 一 提出先：日本医科大 解析人体病理学教授 清水 章
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 腎臓内科 氏名 藤澤 一 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101